

## 私立学校に広がる学童クラブ

放課後を学校で過ごすアフタースクール(学童クラブ)が私立小学校にも広がっている。少子化で特色をアピールしたい学校側と、私立の特色ある教育を受けさせたいが放課後の過ごし方に悩む共働き家庭の親の願いがマッチした結果だ。私立小学校らしくユニークな学童クラブが誕生している。

(村島有紀、写真も)

### 多彩なプログラム

「左肩を上にして座り、膝をしっかりと立ててから立ち上がる」と優雅に見えませう。

東京都中野区の新渡戸文化小学校。女性狂言師の三宅藤九郎さん(38)が指導する狂言の体験教室だ。児童たちの背筋がすくと伸び、初めて聞く「謡」に一心に耳を傾け、やがて大きな声で、三宅さんに続いて謡い始めた。

同校は校舎を新設し、NPO法人「放課後NPOアフタースクール」(港区)と共同で、今年度から「学童クラブ」を開始。水曜日、スペシャル体験では、狂言やサッカー、科学実験教室などさまざまなプログラム

ムが行われ、児童たちが興味のある分野に自由に参加する。保護者に代わって子供を預かる学童保育機能に加え、テニスや英語などの習い事、農業や料理といった体験を組み合わせた多彩さだ。

費用は、学童クラブのみで週5日の場合、月3万4千円。理科実験教室などのプログラムは1件当たり月約6千円と、「市場価格」の7〜8割という。

今年海外から帰国し、2年生の長男(7)を同校に転入させた専業主婦の保護者(42)は「ピアノ教室を探そう」としていたら学校で習えるのと知り、通わせている。子供が興味のあることを見つけてくれたらいい」と話す。

同校の場合、アフタースクールの校長も小学校長が兼ねる。竹越俊五郎校長は「多彩な体験ができるアフタースクールで気付いた才能を学校全体で伸ばすことができる」とメリットを強調する。

### 学習塾に委託

学習塾機能に重点を置いて私立小学校もある。相模原市南区の相模女子大小学

部は、昨年から学習塾「日本エデュネット」(東京都豊島区)に委託して、中学受験にも対応した「放課後クラブ」を開始。軽食の提供もあり、午後8時までプログラムが組まれている。

費用は、週5日の利用で約2万6千円。駅前などにある私立学童クラブの約半額だ。テナント代がかからないため、人件費だけで運営できる。

アフタースクールで狂言の体験教室に参加する児童たち  
— 東京都中野区の新渡戸文化小学校



### 地域交流の課題は学校側との連携

家庭や地域の教育力が低下し、児童が犠牲となる事件が社会問題化したことなどから、国は平成19年度から「放課後子どもプラン」を開始。公立小学校の空き教室などを使い地域交流を進めることにした。しかし実際には、株式会社などに外部委託されることが多く、学校側との連携が課題になっている。

真辺英二教頭は「共働きの横須賀学院も平成16年から、放課後に校内で宿題や運動をする「キッズワーク」を設置。設置当初の利用率は4〜5人と少なかつたが、現在は全校児童の3分の1に当たる約100人が登録している。

塩田征雄校長は「私立の場合、地元友人が作りにくい。それならば学校で子供社会をつくる場所を提示したかった」と話している。

一方、神奈川県須賀野

# “教育機能”で差別化